令和７年度採用（令和６年度実施）

茨城県公立学校教員選考試験

養護教諭

注意事項

1　解答用紙には、解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

①　氏名欄

氏名、校種・職種、教科・科目（中・高のみ）を記入しなさい。

②　受験番号欄

受験番号（６桁の数字）を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

2　この問題冊子は32ページあります。問題は50問あります。試験時間は90分です。

3　試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

4　解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、［ 10 ］と表示のある問題に対して、ａと解答する場合は、次の（例）のように解答番号10の解答欄のａにマークしなさい。

（例）

解答番号	解答欄
10	ⓐ ⓑ ⓒ ⓓ ⓔ

解答番号	解答欄
10	● ⓑ ⓒ ⓓ ⓔ

5　問題冊子の余白等は適宜利用して構いませんが、どのページも切り離してはいけません。

6　終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

第１問　次の１～３の問いに答えなさい。

1　次の (1)、(2) の文は、「学校保健安全法（昭和三十三年四月十日法律第五十六号)」の条文の一部を抜粋したものである。各文の（　①　）～（　④　）に当てはまる語句の正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。ただし、（　　）の同じ番号には、同じ語句が入るものとする。

(1) 第三条　国及び地方公共団体は、相互に連携を図り、各学校において保健及び安全に係る取組が確実かつ（　①　）に実施されるようにするため、学校における保健及び安全に関する最新の知見及び事例を踏まえつつ、（　②　）の措置その他の必要な施策を講ずるものとする。

2　国は、各学校における安全に係る取組を総合的かつ（　①　）に推進するため、学校安全の推進に関する計画の策定その他所要の措置を講ずるものとする。

3　地方公共団体は、国が講ずる前項の措置に準じた措置を講ずるように努めなければならない。

1

	①	②
a	効果的	財政上
b	組織的	財政上
c	組織的	経営上
d	効果的	経営上
e	円滑	財政上

(2) 第二十六条　学校の設置者は、児童生徒等の安全の確保を図るため、その設置する学校において、事故、加害行為、（　③　）等（以下この条及び第二十九条第三項において「事故等」という。）により児童生徒等に生ずる危険を防止し、及び事故等により児童生徒等に危険又は危害が現に生じた場合（同条第一項及び第二項において「危険等発生時」という。）において適切に対処することができるよう、当該学校の施設及び設備並びに（　④　）の整備充実その他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

2

	③	④
a	震災	学校救急体制
b	災害	管理運営体制
c	震災	管理運営体制
d	災害	学校救急体制
e	地震	管理運営体制

2　次の (1)、(2) の文は、「学校保健安全法施行規則（昭和三十三年六月十三日文部省令第十八号)」の条文の一部を抜粋したものである。各文の（　①　）～（　④　）に当てはまる語句の正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 第十条　法第十三条第二項の健康診断は、次に掲げるような場合で必要があるときに、必要な検査の項目について行うものとする。

一　感染症又は食中毒の発生したとき。

二　風水害等により感染症の発生のおそれのあるとき。

三　（　①　）休業日の直前又は直後

四　結核、寄生虫病その他の疾病の有無について検査を行う必要のあるとき。

五　（　②　）のとき。

3

	①	②
a	長期にわたる	入学
b	夏季における	転入学
c	長期にわたる	転入学
d	長期にわたる	卒業
e	夏季における	卒業

(2) 第二十三条　学校歯科医の職務執行の準則は、次の各号に掲げるとおりとする。

一　学校保健計画及び学校安全計画の立案に参与すること。

二　（　③　）の健康相談に従事すること。

三　法第九条の保健指導に従事すること。

四　法第十三条の健康診断のうち歯の検査に従事すること。

五　法第十四条の疾病の予防処置のうち齲歯その他の歯疾の予防処置に従事すること。

六　（　④　）の求めにより、法第十一条の健康診断のうち歯の検査に従事すること。

七　前各号に掲げるもののほか、必要に応じ、学校における保健管理に関する専門的事項に関する指導に従事すること。

2　学校歯科医は、前項の職務に従事したときは、その状況の概要を学校歯科医執務記録簿に記入して校長に提出するものとする。

4

	③	④
a	法第七条	市町村の教育委員会
b	法第七条	学校の設置者
c	法第七条	学校長
d	法第八条	学校の設置者
e	法第八条	市町村の教育委員会

3　次の［　　］の中の文は、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（令和三年法律第八十一号）」の条文の一部を抜粋したものである。各文の（　①　）～（　④　）に当てはまる語句の正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中から一つ選びなさい。ただし、（　　）の同じ番号には、同じ語句が入るものとする。

（基本理念）
第三条　医療的ケア児及びその家族に対する支援は、医療的ケア児の日常生活及び社会生活を（　①　）で支えることを旨として行われなければならない。
2　医療的ケア児及びその家族に対する支援は、医療的ケア児が医療的ケア児でない児童と共に教育を受けられるよう（　②　）配慮しつつ適切に教育に係る支援が行われる等、個々の医療的ケア児の年齢、必要とする医療的ケアの種類及び生活の実態に応じて、かつ、医療、保健、福祉、教育、労働等に関する業務を行う関係機関及び民間団体相互の緊密な連携の下に、切れ目なく行われなければならない。
3　医療的ケア児及びその家族に対する支援は、医療的ケア児が（　③　）に達し、又は高等学校等を卒業した後も適切な保健医療サービス及び福祉サービスを受けながら日常生活及び社会生活を営むことができるようにすることにも配慮して行われなければならない。
4　医療的ケア児及びその家族に対する支援に係る施策を講ずるに当たっては、医療的ケア児及びその保護者（親権を行う者、未成年後見人その他の者で、医療的ケア児を現に（　④　）するものをいう。第十条第二項において同じ。）の意思を（　②　）尊重しなければならない。
5　医療的ケア児及びその家族に対する支援に係る施策を講ずるに当たっては、医療的ケア児及びその家族がその居住する地域にかかわらず等しく適切な支援を受けられるようにすることを旨としなければならない。

［　5　］

	①	②	③	④
a	家庭と地域	確認して	二十歳	監護
b	社会全体	できるだけ	二十歳	養護
c	社会全体	最大限に	十八歳	監護
d	家庭と地域	最大限に	十八歳	看護
e	社会全体	できるだけ	十七歳	看護

第２問　下の表は、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　体育編　（平成29年７月文部科学省）参考　小学校及び中学校の領域別系統表（1）「知識及び技能」G　保健」の内容を出題の都合上、一部改変したものである。次の１～３の問いに答えなさい。

１　小学校で学ぶ内容には、次の表１で示す（1）～（4）がある。それらは下に示す表２中のA、B、C、Dの欄のどこに入るか。当てはまる番号の正しい組み合わせを、次ページのａ～ｅの中から一つ選びなさい。

表１

(1)	病気の予防について理解すること。 ・病気の起こり方 ・病原体が主な要因となって起こる病気の予防 ・生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防 ・喫煙，飲酒，薬物乱用と健康 ・地域の保健に関わる様々な活動
(2)	心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに，簡単な対処をすること。 ・心の発達 ・心と体との密接な関係 ・不安や悩みへの対処の知識及び技能
(3)	体の発育・発達について理解すること。 ・年齢に伴う体の変化と個人差 ・思春期の体の変化 ・体をよりよく発育・発達させるための生活
(4)	健康な生活について理解すること。 ・健康の状態は，主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること ・運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活と体の清潔 ・明るさの調節，換気などの生活環境

表２

	小学校第３学年	小学校第４学年	小学校第５学年	小学校第６学年
保健領域	A	B	C	D
	(略)			

6

	A	B	C	D
a	(1)	(3)	(2)	(4)
b	(2)	(4)	(1)	(3)
c	(3)	(2)	(4)	(1)
d	(4)	(3)	(2)	(1)
e	(4)	(3)	(1)	(2)

2　中学校で学ぶ内容には、次の表1−1で示す (1) ～ (3) と表1−2で示す (4) ～ (6) がある。それらは下に示す表2中のA、B、Cの欄及びD、E、Fの欄のどこに入るか。当てはまる番号の正しい組み合わせを、次ページのａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。

表1−1

(1)	健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。 ・感染症の予防　・健康の保持増進や疾病の予防のための個人や社会の取組
(2)	健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。 ・健康は，主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また，疾病は，主体の要因と環境の要因が関わり合って発生すること ・年齢，生活環境等に応じた運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活
(3)	健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。 ・生活習慣病などの予防　・喫煙，飲酒，薬物乱用と健康

表1−2

(4)	心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに，ストレスへの対処をすること。
(5)	健康と環境について理解を深めること。
(6)	傷害の防止について理解を深めるとともに，応急手当をすること。

表2

	中学校第１学年	中学校第２学年	中学校第３学年
保健分野	A	B	C
	D	E	F

7

	A	B	C
a	(1)	(3)	(2)
b	(2)	(3)	(1)
c	(3)	(2)	(1)
d	(1)	(2)	(3)
e	(2)	(1)	(3)

8

	D	E	F
a	(4)	(6)	(5)
b	(5)	(6)	(4)
c	(6)	(4)	(5)
d	(4)	(5)	(6)
e	(5)	(4)	(6)

3　次の［　　］内で示す（1）～（6）の中で、小学校学習指導要領解説（体育編）に記載されている、けがに関する事項はどれか。当てはまる番号の組み合わせとして適切なものを、下のａ～ｅの中から一つ選びなさい。

(1) 交通事故や身の周りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止
(2) 交通事故などによる傷害の防止
(3) 自然災害による傷害の防止
(4) 応急手当
(5) けがなどの簡単な手当の知識及び技能
(6) 交通事故や自然災害などによる傷害は，人的要因や環境要因などが関わって発生すること

9

a	(1)　(3)　(4)
b	(1)　(5)
c	(2)　(3)　(4)
d	(3)　(5)
e	(1)　(6)

第３問 「改訂６版　救急蘇生法の指針2020（市民用・解説編）」（2021年９月）について、次の１、２の問いに答えなさい。

１　次の（1）～（5）の［　　］の中の文は、「Q&A」の一部である。文中の（　①　）～（　③　）に当てはまる語句の正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。ただし、（　　）の同じ番号には、同じ語句が入るものとする。

(1)

Q：早期認識と通報はなぜ重要か？
A：救助者が（　①　）の判断に迷うと119番通報が遅れがちになるが、その場合でもすみやかに119番通報することにより通信指令員の助言で心停止の判断がより早く可能となる。また、口頭指導により心肺蘇生の実施率が向上する。すみやかな119番通報により救急隊による質の高い（　②　）と二次救命処置がより早く行われる。これらにより心停止傷病者の（　③　）率改善が期待できる。

10

	①	②	③
a	呼吸停止	人工呼吸	治癒
b	呼吸停止	一次救命処置	治癒
c	反応の有無	一次救命処置	社会復帰
d	呼吸停止	人工呼吸	社会復帰
e	反応の有無	人工呼吸	社会復帰

(2)

Q：脳が心停止に対して弱いのはなぜか？

A：脳が心停止に対して弱い大きな要因は、酸素と（ ① ）の消費量が多く、絶え間ない血流で補給しなければならないこと、酸素や（ ① ）が不足すると神経細胞がすぐに障害されてしまうこと、神経細胞は（ ② ）しにくいことなどである。これらのことは、脳は絶えず十分な血流を得て、血液から必要な酸素や（ ① ）を得なければ、心拍が再開しても（ ③ ）に至るか、重大な後遺症が残ることを意味している。

11

	①	②	③
a	アミノ酸	治癒	脳梗塞
b	ブドウ糖	再生	脳梗塞
c	アミノ酸	再生	脳梗塞
d	ブドウ糖	治癒	脳死
e	ブドウ糖	再生	脳死

(3)

Q：なぜ心臓震盪では心停止が起こるのか？

A：心臓の正常な拍動は（ ① ）で生じる規則的な電気活動によって調節されている。心臓に（ ② ）な衝撃が加わると、そのタイミングによっては規則的な電気活動が乱され、（ ③ ）となることが心停止の原因である。

12

	①	②	③
a	心筋	瞬間的	心室細動
b	心筋	慢性的	心房細動
c	脳下垂体	瞬間的	心室細動
d	脳下垂体	慢性的	心房細動
e	心筋	慢性的	心室細動

(4)

Q：新型コロナウイルス感染症流行下でも小児に人工呼吸を行う理由は何か？

A：小児の心停止は（ ① ）が原因であることが多いため、人工呼吸も行ったほうが救命の可能性が高くなることが示されている。加えて、小児の心停止に対応する救助者はすでに傷病者と（ ② ）に接触していることが多く、もし傷病者が感染していれば救助者もすでに感染している可能性が高い。これらのことから、人工呼吸を行うことによる救助者の（ ③ ）のリスクよりも、救命の可能性を重視したためである。

13

	①	②	③
a	大けが（外傷）	濃厚	重症化
b	低酸素	間接的	重症化
c	低酸素	濃厚	新たな感染
d	大けが（外傷）	間接的	新たな感染
e	大けが（外傷）	濃厚	新たな感染

(5)

Q：心肺蘇生のさいは、日常的に使用しているマスクではなく、N95マスクを用いたほうがよいのではないか？

A：ウイルスの防護力はN95マスクのほうが優れているが、（ ① ）にしっかりとフィットしていなければ、その防護力は（ ② ）マスクと大差ない。N95マスクの適切な装着には訓練が必要であり、市民救助者が救命処置を行うさいは（ ③ ）に使用しているマスクを用いればよい。

14

	①	②	③
a	鼻	ウレタン	日常的
b	顔	ウレタン	継続的
c	鼻	不織布	継続的
d	顔	不織布	日常的
e	鼻	不織布	日常的

2　次の文は、「ファーストエイド」についての説明からの抜粋である。①～④の説明について正しいものは正、誤っているものは誤とした場合、その正誤の正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中から一つ選びなさい。

①	低血糖	糖尿病の人は血糖を下げる薬を使用していることがあります。血糖が下がりすぎると、汗をかいたり指先がふるえたりします。このような症状が出たらブドウ糖タブレットなどを摂取するよう医師から指導されています。それがないときは角砂糖や甘いジュースを持ってきてあげます。
②	失神	脳に流れる血液が一時的に減ると、意識を失うことがあります。これを失神といいます。失神しそうだと感じたら、立った状態ではなく、座るか横になることが大切です。
③	すり傷、切り傷	土などで汚れた傷口をそのままにしておくと化膿したり、傷の治りに支障をきたす場合があります。可能であれば、すみやかに傷口を水道水など清潔な流水で十分に洗ってください。深い傷や汚れがひどい傷では、流水で洗浄後、消毒液を塗布するなどの処置をします。破傷風の予防接種をしていない場合や接種から年月が経っている場合は、後で破傷風になる心配もあります。
④	低体温症	寒いところで体温が極端に低下すると命の危険があります。それ以上に体温が低下するのを防ぐことが大切です。救急隊を待つ間、まず暖かい場所に移し、衣服が濡れていれば脱がせて、乾いた毛布や衣服で覆って保温してください。

15

	①	②	③	④
a	正	正	誤	誤
b	正	誤	正	誤
c	誤	正	誤	誤
d	誤	誤	正	正
e	正	正	誤	正

第４問　次の１、２の問いに答えなさい。

１　次の［　　］の中の文は、「学校保健安全法（昭和三十三年四月十日法律第五十六号）」に記載されている健康診断についての条文の一部を抜粋したものである。文中の（　①　）～（　⑥　）に当てはまる語句の組み合わせを、下のａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。ただし、（　　）の同じ番号には、同じ語句が入るものとする。

（就学時の健康診断）
第十一条　市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会は、学校教育法第十七条一項の規定により翌学年の初めから同項に規定する学校に就学させるべき者で、当該市町村の区域内に住所を有するものの就学に当たつて、その健康診断を行わなければならない。
第十二条　市町村の教育委員会は、前条の健康診断の結果に基づき、（　①　）し、保健上必要な助言を行い、及び学校教育法第十七条第一項に規定する（　②　）若しくは免除又は特別支援学校への就学に関し指導を行う等適切な措置をとらなければならない。
（児童生徒等の健康診断）
第十三条　学校においては、毎学年定期に、児童生徒等（通信による教育を受ける学生を除く。）の健康診断を行わなければならない。
２　学校においては、必要があるときは、臨時に、児童生徒等の健康診断を行うものとする。
第十四条　学校においては、前条の健康診断の結果に基づき、疾病の予防処置を行い、又は（　③　）し、並びに（　④　）を軽減する等適切な措置をとらなければならない。
（職員の健康診断）
第十五条　（　⑤　）は、毎学年定期に、学校の職員の健康診断を行わなければならない。
２　（　⑤　）は、必要があるときは、臨時に、学校の職員の健康診断を行うものとする。
第十六条　（　⑤　）は、前条の健康診断の結果に基づき、（　③　）し、及び（　⑥　）を軽減する等適切な措置をとらなければならない。

16

	①	②
a	受診を指示	義務の猶予
b	治療を勧告	義務の勧告
c	受診を勧告	義務の猶予
d	治療を勧告	義務の猶予
e	受診を指示	義務の勧告

17

	③	④
a	治療を指示	運動及び作業
b	受診を勧告	運動及び作業
c	治療を勧告	登校
d	治療を指示	登校
e	受診を勧告	登校

18

	⑤	⑥
a	学校の設置者	労働
b	文部科学省	労働
c	学校の設置者	勤務
d	文部科学省	勤務
e	学校の管理職	労働

2 次の（1）～（3）の文は、「児童生徒等の健康診断マニュアル　平成27年度改訂（文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課監修公益財団法人日本学校保健会）第１章児童、生徒、学生及び幼児の健康診断の実施　５　方法及び技術的基準」について述べたものである。各文中の①～⑤の説明について正しいものは正、誤っているものは誤とした場合、その正誤の正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。

（1）尿検査の方法について

①	正しい採尿は、就寝前に排尿をさせ、翌朝一番尿を少し排尿してから中間尿を100ml程度採尿する。
②	女子で採尿日が生理日及びその前後１～２日であれば、別の日に採尿させて検査する。
③	学校では、直射日光を避け、風通しの良い場所に検体を集める。
④	蛋白尿は３～５時間後に陰転することがあるので、検査は採尿した当日（採尿後５時間以内）に完了することが望ましい。
⑤	１次検尿を行い、陽性と判断された児童生徒等に通知して２次検尿を、早朝一番尿の中間尿を用いて尿沈渣を行う。

19

	①	②	③	④	⑤
a	正	誤	誤	正	誤
b	誤	誤	誤	誤	正
c	誤	正	正	誤	誤
d	正	正	誤	誤	誤
e	誤	誤	正	正	正

(2) 学校における健康診断で対象となる主な眼科所見名の説明

	所見名	内容と説明
①	結膜炎	細菌性とウイルス性に大別されます。 細菌性のものは感染性があり、ほとんどが接触感染で出席停止が必要です。 充血、流涙、痛み、目やになどの症状も強く、発熱やのどの痛みを伴うこともあります。
②	アレルギー性結膜炎	目のかゆみ、充血、目やになどの症状のほかに、まばたき、まぶしさ、視力低下などの症状があります。
③	眼瞼炎	目の周囲のただれ、かぶれ、かさつき、切れなどで、かゆみ、痛みを訴えます。
④	麦粒腫	まぶたの慢性肉芽腫性炎症です。炎症が治まっても、しこりが残ることが少なくありません。
⑤	眼位の異常	斜視（常にどちらかの目が斜めを向いている）と、斜位（通常は両眼ともに正常であるが、視線をさえぎられた目が斜めを向く）に大別されます。 眼鏡でもコンタクトレンズでも視力が出にくいこともあり、詳しい検査が必要です。

20

	①	②	③	④	⑤
a	誤	誤	誤	正	誤
b	誤	誤	誤	誤	正
c	正	誤	正	正	正
d	正	正	誤	誤	誤
e	誤	正	正	誤	正

(3) 学校における健康診断で対象となる主な耳鼻咽喉科所見名の説明

	所見名	内容と説明
①	耳垢栓塞（耳あか）	鼓膜が見えない程度にたまっています。このままプールに入ると耳あかがふやけて、更に聞こえが悪くなったり外耳炎を起こしたりします。また鼓膜が見えないため、中耳炎などの病気が隠れていることもあります。
②	滲出性中耳炎	炎症を繰り返し、鼓膜に穴（穿孔）があいています。耳だれが続いたり、聞こえが悪くなったりします。放置すると難聴が進行するおそれもあります。
③	慢性鼻炎	慢性的に粘性・膿性鼻汁があり、鼻づまりや嗅覚障害・鼻出血・頭痛・痰がらみの咳など、いろいろな症状の原因となります。
④	鼻中隔わん曲症	鼻の左右の空間を仕切る壁（鼻中隔）が強く曲がっているため、鼻づまりや鼻出血の原因となることがあります。
⑤	アデノイドの疑い	扁桃がはれています。大きくても心配ないものもありますが、呼吸や嚥下の障害（飲み込みにくい）を来す場合があります。

21

	①	②	③	④	⑤
a	正	誤	誤	正	誤
b	誤	誤	誤	誤	正
c	誤	正	正	誤	誤
d	正	正	誤	誤	誤
e	誤	誤	正	正	正

第５問　次の文は、「喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料―令和３年度改訂―高等学校編」（公益財団法人日本学校保健会）の一部を抜粋したものである。次の１～３の問いに答えなさい。

１　次の文は、中・高校生の喫煙、飲酒、薬物乱用の現状について述べたものである。これらの説明のうち誤っているものを、次のａ～ｄの中から一つ選びなさい。

22

a	喫煙を経験したことのある中・高校生の割合は、男女とも年々顕著に増加しています。2016年度の調査では、高校生男子の喫煙経験率は約７％、中学生男子及び女子、高校生女子は約２～３％であり、20年前の1.5倍に増加しています。
b	飲酒を経験したことのある中高生の割合は、男女とも年々顕著に低下しています。飲酒経験率は男女で差は小さく、2016年（平成28年）の調査では、高校生で約30％、中学生で約15％であり、20年前に比べて高校生で約３分の１、中学生で約５分の１になっています。
c	中・高校生の飲酒経験率は、喫煙経験率よりも高い結果となっていますが、年々低下しています。また、月飲酒率（調査直近の30日間で１回でも飲酒したことがあると回答した割合）は、高校生で約７％、中学生で約３％と顕著に低下しています。
d	2018年に実施された高校生を対象とする全国調査によると、過去１年以内の違法薬物の経験率は0.38％であり、これは約260人に１人という割合となります。これらのデータは、薬物問題を抱えた生徒は全国どの学校にいても不思議ではないことを示唆しています。

2　次の［　　］の中の文は、違法薬物の使用経験のある高校生にはどのような特徴があるかを説明したものである。文中の（　①　）～（　⑥　）に当てはまる語句の正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。ただし、（　　）の同じ番号には、同じ語句が入るものとする。

高校生を対象とする「薬物使用と生活に関する全国高校生調査2018」を通じて、薬物問題を抱えた高校生の特徴が明らかにされています。

第一の特徴は、学校生活で（　①　）状態にあることです。過去１年以内に違法薬物の経験のある高校生は、経験のない高校生に比べて、相談事のできる友人がいない、（　②　）友人がいないといった調査結果が得られています。また全般的な学校生活に対して「全く楽しくない」と回答する割合が高くなっています（図１　省略）。

第二の特徴は、家庭生活において保護者と十分な（　③　）がとれていない状態にあることです。違法薬物の経験のある高校生は、経験のない高校生に比べて、悩み事があっても母親には相談しない、大人不在で過ごす時間が長いといった調査結果が得られています（図２　省略）。ただし、父親への相談については、薬物使用経験があっても、なくても（　④　）程度の高校生が「ほとんど相談しない」という状態になっている点には注意が必要です。

第三の特徴は、薬物使用が身近な状態にあるということです。違法薬物の経験のある高校生は、経験のない高校生に比べて、（　⑤　）使用に誘われたことがある、身近に（　⑤　）を使っている人がいるといった調査結果が得られています（図３　省略）。薬物使用経験者の過半数には、こうした身近な使用者の存在が伺われ、身近な友人や知人からの誘いが薬物使用のきっかけとなっている可能性が考えられます。その一方で、薬物使用の誘いを断る自信が全くないという回答が多いという特徴もみられます。

このような生徒を（　⑤　）を含む違法薬物から守っていくためには、学校や家庭で（　①　）している生徒がいないか、十分に注意しながら生徒の（　⑥　）に気が付くことが必要です。また、友人や知人など身近な人からの誘いを断るスキルを身に付けていくことも有効でしょう。

23

	①	②
a	興奮	談笑できる
b	孤立	談笑できる
c	興奮	討論しあえる
d	孤立	親しく遊べる
e	興奮	親しく遊べる

24

	③	④
a	コミュニケーション	2割
b	連絡	4割
c	コミュニケーション	4割
d	コミュニケーション	3割
e	連絡	2割

25

	⑤	⑥
a	大麻	異常
b	大麻	異変
c	覚醒剤	異変
d	覚醒剤	異常
e	危険ドラッグ	異変

3　次の［　　］の中の文は、「薬物乱用防止教育に必要な内容」を一部抜粋したものである。文中の（　①　）～（　④　）に当てはまる語句の正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 薬物乱用は限られた人や特別な場合の問題ではなく、誰の身近にも起こりうる問題であることが明快に述べられていること
(2) 法律及び（　①　）を守ることの大切さを明確な表現で伝えること
(3) 教師が伝えたい内容で一方的に構成するのではなく、対象となる生徒の（　②　）や理解力など、発育・発達段階を十分考慮した内容や指導方法であること
(4) 害や怖さのみを強調するのではなく、「薬物等の誘惑に負けない気持ちをもつことが充実した人生につながる」という（　③　）メッセージが含まれること
(5) 生徒がおかれている地域や家庭環境を非難したり、酒やたばこを販売する職業を悪と決めつけたりするようなことはしないなど、生徒や家族を（　④　）可能性のある内容は避けること

26

	①	②
a	社会的ルール	体験
b	道徳	経験
c	道徳	興味・関心
d	道徳	体験
e	社会的ルール	興味・関心

27

	③	④
a	楽観的な	悲しませる
b	積極的な	傷つける
c	積極的な	悲しませる
d	楽しい	悲しませる
e	楽観的な	傷つける

第６問　次の１、２の問いに答えなさい。

１　次の［　　］の中の文は、「児童生徒等の健康診断マニュアル　平成27年度改訂（文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課監修公益財団法人日本学校保健会）第２章　健康診断時に注意すべき疾病及び異常　８　精神科関連」の項からの抜粋である。文中の（　①　）～（　⑩　）に当てはまる語句の正しい組み合わせを、次ページのａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。ただし、（　　）の同じ番号には、同じ語句が入るものとする。

こころの問題

健康診断の場面だけでこころの問題を診断することは困難であるが、（　①　）などが把握している情報も総合して、（　②　）への相談を含めてさらなる対応が必要かを判断することはできる。その際、問題を大きく（1）発達の問題、（2）内在化問題、（3）外在化問題の三つに分けて考えることが有用である。

１　発達の問題

症状が低年齢で発現して、脳機能の発達の障害がある場合を発達障害と総称する。発達障害から（　③　）（標準的な発達）までスペクトラムを形成するとされる。すなわち、発達特性（発達障害と連続性を持つ特徴）が著しくて本人や周囲の苦痛や（　④　）を生じている場合に、発達障害と診断される。

代表的な発達障害は、自閉症スペクトラム障害（（　⑤　））、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）である。（　⑤　）は、社会的コミュニケーション（人とのやりとり）の障害及び限局された反復的行動（（　⑥　）やこだわりなど）という二つの症状で定義される。自閉症やアスペルガー症候群を含む概念である。ADHDは、不注意、多動性、（　⑦　）という三つの症状で定義される。LDは、読字や書字や（　⑧　）の学習に特異的な困難があることで定義される。また、発達障害者支援法による発達障害ではないが、知的能力障害も重要である。特に、知的な遅れが軽い場合には、他の児童生徒等と異なる行動をすると、上記の発達障害を含めたこころの問題、あるいは単なる（　⑨　）とみなされる可能性がある。

発達の問題が疑われる症状としては、落ち着きがない、ぼうっとしていて話を聞いていないように見える、話がかみ合わない、場にそぐわない行動をする、妙なことにこだわる、などが挙げられる。（　⑩　）であり、指示に合わせて身体を動かすことが苦手な場合もある。このように発達の問題があると集団から外れて見えることがしばしばあるが、集団からの逸脱がすべて病的ではないし、すべて発達の問題でもない。

28

	①	②
a	養護教諭	スクールカウンセラー
b	スクールカウンセラー	専門医
c	学級担任	スクールカウンセラー
d	養護教諭	専門医
e	学級担任	養護教諭

29

	③	④
a	正常な発達	健康問題
b	健常な発達	生活の困難
c	定型発達	健康問題
d	健常な発達	健康問題
e	定型発達	生活の困難

30

	⑤	⑥
a	ASD	発作症状
b	SLD	発作症状
c	AED	常同運動
d	ASD	常同運動
e	AED	発作症状

31

	⑦	⑧
a	衝動性	算数
b	攻撃性	算数
c	衝動性	理科
d	攻撃性	社会科
e	衝動性	社会科

32

	⑨	⑩
a	反抗	わがまま
b	不服従	不器用
c	反抗	不器用
d	不服従	わがまま
e	わがまま	甘えん坊

2　次の［　　］の中の文は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月　文部科学省）第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容　「保健」　３　内容（1）現代社会と健康」の一部を抜粋したものである。文中の（　　）内に当てはまる語句を、下のａ～ｅの中から一つ選びなさい。

> （前略）このため，本内容は，我が国において現代の健康課題がみられること，健康の考え方が 変化してきていること，健康の保持増進には健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わること，感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られ，それに対応した対策が必要であること，生活習慣病などの予防と回復には調和のとれた生活の実践とともに疾病の早期発見，治療及び社会的な対策が必要であること，喫煙，飲酒，薬物乱用などは健康や社会に大きな影響を与えることから，個人への働きかけや社会環境への対策が必要であること，精神疾患の早期発見や（　　）が必要であることなどを中心として構成している。

33

a	発症予防
b	罹患後の対策
c	重症化防止
d	早期治療
e	社会復帰

第７問　次の１～３の問いに答えなさい。

１　次の［　　］の中の文は、「学校において予防すべき感染症の解説　平成30（2018）年３月発行　（公益財団法人日本学校保健会）」で「Ⅱ　学校における感染症への対応」について述べたものである。

次の（1）～（3）の文中の（　　）内に当てはまる語句を、下のａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。ただし、（　　）の同じ番号には、同じ語句が入るものとする。

（1）感染症に関する基本的理解

ウイルス、細菌、真菌などの微生物が、宿主の体内に侵入し、臓器や組織の中で増殖することを「感染」といい、その結果、生じる疾病が「感染症」である。

感染症が発生するには、その原因となる病原体の存在、病原体が宿主に伝播する感染経路、そして病原体の伝播を受けた宿主に（　①　）があることが必要となる。病原体、感染経路、（　①　）宿主の三つを、感染症成立のための三大要因という。感染の予防対策として、消毒や殺菌等により 感染源をなくすこと、手洗いや食品の衛生管理など周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養バランスがとれた食事、規則正しい生活習慣、適度な運動、予防接種などにより体の抵抗力を高める（（　①　）対策）ことが、感染症対策の重要な手段となる。

①　［　34　］

a	感受性
b	免疫力
c	受容体
d	耐久性
e	関係性

(2)（ ② ）予防策

糞便・血液・体液・吐物等には感染性病原体が含まれていることが多く、これらに接するときには、素手で扱うことを避け、手袋をすること、必要に応じてマスクやゴーグルをつけること、接した後は手洗いをより丁寧に行うことなどが、感染症予防の基本である。これらを（ ② ）予防策といい、従来は病院内の感染予防策として用いられてきたが、近年は病院内に限らず、学校を含め、感染の可能性があるものを取り扱う場合に必要な基本的な感染予防策とみなされるようになってきている。

② 35

a	第一次
b	第二次
c	特殊
d	標準
e	病院

(3) 空気感染（(③) 感染)

空気中の塵や（ ③ ）（5μm以下の微粒子；空気中を1m以上浮遊）を介する感染である。すなわち、感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、口や鼻から飛散した病原体がエアロゾル化し、感染性を保ったまま空気の流れによって拡散し、同じ空間にいる人もそれを吸い込んで感染する。

一般に市販されているマスク（不織布製またはガーゼのマスク）では（ ③ ）は通過してしまうため、空気感染する感染症の予防策としては不十分であることに注意する。なお、医療機関においては、（ ③ ）の通過を防ぐN95マスクが使用されるが、一般的に広く市販されているものではない。

③ 36

a	唾液
b	飛沫
c	飛沫核
d	花粉
e	塵埃

2　次の表は、「学校において予防すべき感染症の解説　平成30（2018）年３月発行　（公益財団法人日本学校保健会）」で「Ⅲ　感染症各論　4　その他の感染症（第三種の感染症として扱う場合もある）」に記載されている疾病の説明である。その説明のうち誤っているものを、次のａ～ｅの中から一つ選びなさい。

37

a	マイコプラズマ感染症	秋～冬期を中心に流行し、主に乳児で重症化する。再感染を繰り返すが、初感染時の症状が重い。細気管支炎、肺炎を合併して呼吸困難に陥ることもある呼吸器感染症。
b	感染性胃腸炎 （ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症、アデノウイルス感染症など）	嘔吐と下痢が突然始まることが特徴の疾患である。ウイルスによる腸管感染症が多い。ノロウイルス感染症は秋～冬に多く、ロタウイルス感染症は冬～春に多く、アデノウイルス感染症は年間を通じて発生する。ロタウイルスやアデノウイルスによるものは乳幼児が多く、ノロウイルス感染症は乳幼児～高齢者まで幅広い年齢層にみられる。
c	溶連菌感染症 （主にA群溶血性レンサ球菌感染症）	主にA群溶血性レンサ球菌が原因となる感染症である。扁桃炎など上気道感染症、皮膚感染症、猩紅熱などが主な疾患である。特に注意すべき点は、本症がいろいろな症状を呈すること、合併症として発症数週間後にリウマチ熱、腎炎を起こす場合があることである。そのため、全身症状が強いときは安静にし、確実な抗菌薬治療を受け、経過を観察する必要がある。
d	伝染性紅斑 （りんご病）	かぜ様症状の後に、顔面、頬部に蝶のような形の紅斑がみられ、手足にはレース状の紅斑がみられる。ほほの真っ赤な発しんの状態から、りんご（りんごほっぺ）病とも呼ばれている。幼児から学童に好発する。
e	手足口病	口腔粘膜と四肢末端に水疱性発しんを生じる疾患である。毎年のように流行するが、時に大流行がみられる。流行のピークは夏季であり、乳幼児に好発する。原因となる病原ウイルスが複数あるため、再感染することもある。

3　次の(1)、(2)の［　　］の中の文は、疾病についての説明である。文中の（　①　）～（　④　）に当てはまる語句の正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 心筋炎「学校心臓検診の実際　スクリーニングから管理まで　令和２年度改訂（公益財団法人日本学校保健会）」

ウイルス感染、細菌感染、（　①　）、リウマチ熱などによって起こるが、ウイルスによるものがもっとも多い。突然死をきたすことがある。特に子どもで問題になるのは（　②　）の心筋炎で、“健康そのものだったのに突然死した”というような例も少なくない。急速に心不全症状が進行するもの、頻拍症や房室ブロックなどの不整脈が目立つもの、およびその両者を伴うものに分けられるが、目立った症状もなく（　③　）にも異常がないものがある。このような例を発見することは容易ではない。心筋炎の既往歴がある子どもの（　④　）は、専門医と相談しながら慎重に行う必要がある。

38

	①	②	③	④
a	水俣病	先天性	心電図	安全管理
b	川崎病	先天性	心電図	安全管理
c	川崎病	先天性	レントゲン検査	生活管理
d	川崎病	不顕性	心電図	生活管理
e	水俣病	不顕性	レントゲン検査	安全管理

(2) １型糖尿病「児童生徒等の健康診断マニュアル　平成27年改訂（文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課監修公益財団法人日本学校保健会）」

１型糖尿病は（　①　）のインスリンを産生しているβ細胞がウイルス感染や自己免疫現象などによって破壊され、インスリン分泌能が著しく低下して起こる。多くは（　②　）発症し、口渇、多飲、多尿などの症状が現れ、糖尿病と診断される。

治療にはインスリン注射が不可欠で、学校においてもこれらの注射が必要になる。治療中は高血糖による（　③　）、低血糖による（　④　）に気を付けねばならない。いずれも生命に関わることであり、学校における対応も必要になる。

39

	①	②	③	④
a	膵臓	ゆっくりと	糖尿病性昏睡	体調不良
b	肝臓	急速に	体調不良	糖尿病性昏睡
c	膵臓	急速に	糖尿病性昏睡	体調不良
d	肝臓	ゆっくりと	体調不良	糖尿病性昏睡
e	肝臓	ゆっくりと	糖尿病性昏睡	体調不良

第８問　次の１、２の問いに答えなさい。

１　次の表は、学校環境衛生基準の「第１　教室等の環境に係る学校環境衛生基準」から抜粋したものである。下線部①～⑬について、その正誤の正しい組み合わせを、次ページのａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。

検査項目	基準	方法
(1)換気	換気の基準として、①二酸化炭素は、②1500ppm以下であることが望ましい。	①二酸化炭素は、検知管法により測定する。
(2)温度	③18℃以上、④30℃以下であることが望ましい。	0.5度目盛の温度計を用いて測定する。
(3)相対湿度	⑤30％以上、80％以下であることが望ましい。	0.5度目盛の乾湿球湿度計を用いて測定する。
(4)浮遊粉じん	0.10mg／m³以下であること。	相対沈降径10μm以下の浮遊粉じんを⑥リトマス試験紙に捕集し、その質量による方法（Low-Volume Air Sampler法）又は質量濃度変換係数（K）を求めて質量濃度を算出する相対濃度計を用いて測定する。
(5)気流	0.5m／秒以下であることが望ましい。	⑦１m／秒以上の気流を測定することができる風速計を用いて測定する。
(6)一酸化炭素	⑧６ppm以下であること。	検知管法により測定する。
(7)二酸化窒素	0.06ppm 以下であることが望ましい。	⑨検知管法により測定する。
(8)次ページの表に記載→※		
(9)ダニ又はダニアレルゲン	⑩10匹／m²以下又はこれと同等のアレルゲン量以下であること。	温度及び湿度が高い時期に、ダニの発生しやすい場所において１m²を電気掃除機で⑪１分間吸引しダニを捕集する。捕集したダニは、顕微鏡で計数するか、アレルゲンを抽出し、酵素免疫測定法によりアレルゲン量を測定する。

→※(8)揮発性有機化合物

検査項目	基準	方法
ホルムアルデヒド	⑫10μg／m³以下であること。	ジニトロフェニルヒドラジン誘導体固相吸着／溶媒抽出法により採取し、高速液体クロマトグラフ法により測定する。
トルエン	260μg／m³以下であること。	固相吸着／溶媒抽出法、固相吸着／加熱脱着法、容器採取法のいずれかの方法により採取し、⑬ガスクロマトグラフ－質量分析法により測定する。
キシレン	200μg／m³以下であること。	
パラジクロロベンゼン	240μg／m³以下であること。	
エチルベンゼン	3800μg／m³以下であること。	
スチレン	220μg／m³以下であること。	

40

	①	②	③	④
a	正	誤	誤	正
b	誤	誤	誤	誤
c	正	正	正	誤
d	正	正	誤	誤
e	誤	誤	正	正

41

	⑤	⑥	⑦	⑧
a	誤	誤	誤	誤
b	正	誤	誤	正
c	誤	正	正	誤
d	正	正	誤	誤
e	誤	誤	正	正

42

	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
a	正	誤	誤	正	誤
b	誤	誤	正	誤	正
c	誤	正	正	誤	誤
d	正	正	誤	誤	誤
e	誤	誤	正	正	正

2　次の［　　］の中の文は、「中学校施設整備指針（令和４年６月、文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部）」の「第４章　各室計画　第10　管理関係室　４　保健室」からの抜粋である。次の (1)、(2) の問いに答えなさい。

(1) 文中の（　①　）～（　④　）に当てはまる語句の正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中から一つ選びなさい。

(1) 生徒の休養や様々な健康課題への対応など各種業務に柔軟に対応し，（　①　）を配置する空間を適切に区画することのできる面積，形状等とすることが（　A　）。
(2) 生徒等が（　②　）から直接出入りできる専用の出入口を設け，その近傍に手洗い，足洗い等の設備を設置する空間を確保することも（　B　）。
(3) 生徒が養護教諭に相談しやすいよう，保健室に隣接した位置又は保健室内に間仕切りを設置する等して，（　③　）に配慮した落ち着いた空間を確保することも（　C　）。
(4) 保健室が健康教育の中心となるよう，健康教育に関する掲示・展示のためのスペースや（　④　）のためのスペースを，室内又は隣接した位置に確保することが（　D　）。
(5) 保健室に近接した位置に便所やシャワー等の設備を計画することが（　E　）。
(6) 生徒の出欠状況や健康観察，健康診断，保健室来室管理等の保健系機能を実装した統合型校務支援システム等を利用できるよう，情報機器や情報ネットワークを活用できる環境を計画することが（　F　）。

43

	①	②	③	④
a	ソファ	運動場	プライバシー	視聴覚・情報機器
b	ベッド	運動場	プライバシー	視聴覚・情報機器
c	ソファ	体育館	発達段階	委員会活動
d	ベッド	屋外	プライバシー	委員会活動
e	ソファ	屋外	発達段階	委員会活動

(2) 本整備指針では次に示すように、３種の段階に応じた表現がなされている。前ページの文中の（　A　）～（　F　）の中で、「重要である」と表記されているのはどれか。当てはまるものの最も正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中から一つ選びなさい。

「～重要である。」：学校教育を進める上で必要な施設機能を確保するために標準的に備えることが重要なもの
「～望ましい。」　：より安全に，より快適に利用できるように備えることが望ましいもの
「～有効である。」：必要に応じて付加・考慮することが有効なもの

44

a	A　B　C
b	D　E
c	A　F
d	B　E
e	C　D

第９問　次の１、２の問いに答えなさい。

１　次の［　　］の中の文は、「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引―令和３年度改訂―（公益財団法人日本学校保健会）」の「第３章　学校における健康相談の進め方と支援体制づくり」の一部を抜粋したものである。文中の（　Ａ　）～（　Ｅ　）に当てはまる語句を、下のａ～ｅの中からそれぞれ一つ選びなさい。

支援の進め方

養護教諭や学級担任等が把握した、健康相談が必要と考えられる児童生徒について、校内委員会で検討し、チームで支援できるようにする。校内委員会では、支援方針や支援方法を検討し、支援計画を作成する。

（１）　支援計画の作成（略）

（２）　支援検討会議（事例検討会）

支援検討会議は、（　Ａ　）、あるいは対応に行き詰ったときなどに、積極的に開催していくことが必要である。

①　支援検討会議の目的

ア　児童生徒理解・問題理解を深め、よりよい支援の方法を考える。

イ　教職員間の共通理解を図り、効果的な連携を行う。

ウ　健康相談の（　Ｂ　）を図る。

②　支援検討会議の進め方

校内で行う一般的な支援検討会議は、校内組織メンバー及び該当児童生徒の関係者が参加し、行われる。一般的な進め方は、次の通りである。時間は１事例１～２時間程度、10人前後で行われることが望ましい。

ア　事例発表、質疑応答、（　Ｃ　）、指導助言の順で行われることが多い。

イ　司会者・記録者の役割分担を行う、必要に応じ助言者（SC等）を依頼する。

ウ　司会者は、会議開始に当たって支援検討会議（事例検討会）のねらいと留意点を確認する。批判的な発言をさけ（　Ｄ　）な意見を出すよう依頼し、参加者が発言しやすい運営に心掛ける。

エ　発表者は、これまでの支援経過について説明し、検討してほしい課題（意見をもらいたいこと）について述べる。

オ　解決策等について、それぞれの立場で意見を出し合う。

カ　事例提供者及び（　Ｅ　）双方にとって有益となる会議にする。

A　45

a	b	c	d	e
随時	定期的に	毎週	毎月	学期毎に

B　46

a	b	c	d	e
有用性の理解	関係機関等との連携	周知	実践の推進	実践力の向上

C 47

a	b	c	d	e
課題解決	情報収集	原因究明	個別支援	意見交換

D 48

a	b	c	d	e
協力的	建設的	無害	妥当	即効的

E 49

a	b	c	d	e
協力者	主催者	保護者	加害者・被害者	参加者

2　次の［　　］の中の文は、「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～平成29年３月（文部科学省）」の「第１章　児童生徒の心身の健康の保持増進に向けた取組」の一部を抜粋したものである。文中の（　①　）～（　⑤　）に当てはまる語句の正しい組み合わせを、下のａ～ｅの中から一つ選びなさい。

現在の児童生徒には、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、性に関する問題など、多様な課題が生じている。また、身体的な不調の背景には、いじめ、児童虐待、不登校、貧困などの問題が関わっていることもある。

このような多様化・複雑化する児童生徒が抱える現代的な健康課題については、専門的な視点での対応が必要であり、養護教諭が専門性を生かしつつ（　①　）な役割を果たすことが期待される。さらに、これらの健康課題に対応する取組は、学校における（　②　）全体を通じて行うことが必要であり、学校の（　③　）が連携して取り組むことが重要である。

また、これらの現代的な健康課題に関わる養護教諭の役割としては、児童生徒の健康課題を的確に早期発見し、課題に応じた支援を行うことのみならず、全ての児童生徒が（　④　）健康な生活を送るために必要な力を育成するための取組を、他の教職員と連携しつつ（　⑤　）行うことが重要である。

50

	①	②	③	④	⑤
a	補助的	教育活動	全ての教職員	卒業するまで	定期的に
b	中心的	学校保健活動	全ての教職員	生涯にわたって	定期的に
c	補助的	学校保健活動	関係する教職員	卒業するまで	日常的に
d	中心的	教育活動	全ての教職員	生涯にわたって	日常的に
e	中心的	教育活動	関係する教職員	生涯にわたって	定期的に

問題番号			解答番号	正答	配点
大問	中問	小問			
1	1	(1)	1	a	6
		(2)	2	b	6
	2	(1)	3	e	6
		(2)	4	e	6
	3		5	c	6
2	1		6	d	6
	2		7	b	6
			8	a	6
	3		9	b	6
3	1	(1)	10	c	6
		(2)	11	e	6
		(3)	12	a	6
		(4)	13	c	6
		(5)	14	d	6
	2		15	e	6
4	1		16	d	6
			17	a	6
			18	c	6
	2	(1)	19	c	6
		(2)	20	e	6
		(3)	21	a	6
5	1		22	a	6
	2		23	d	6
			24	c	6
			25	b	6
	3		26	e	6
			27	b	6
6	1		28	d	6
			29	e	6
			30	d	6
			31	a	6
			32	b	6
	2		33	b	6
7	1	(1)	34	a	6
		(2)	35	d	6
		(3)	36	c	6
	2		37	a	6
	3	(1)	38	d	6
		(2)	39	c	6
8	1		40	c	6
			41	b	6
			42	b	6
	2	(1)	43	d	6
		(2)	44	c	6
9	1	A	45	b	6
		B	46	e	6
		C	47	e	6
		D	48	b	6
		E	49	e	6
	2		50	d	6